

この一对のクスノキは、夫婦楠と呼ばれています。2本の樹は注連縄と呼ばれる縄で結ばれており、神聖な繋がりを意味しています。神道では注連縄は神聖さを表すものであると同時に悪霊を祓う役割も果たしています。

夫婦楠は明治神宮が建立された1920年に植えられ、それから現在の大きさにまで成長してきました。両御祭神は大変仲睦まじかったこともあり、夫婦楠は幸福や揺るぎない結婚生活、家族の健康などの象徴と見なされています。それに加え、この夫婦の樹は恋愛運や結婚の成功を求める人々に人気のスポットともなっています。